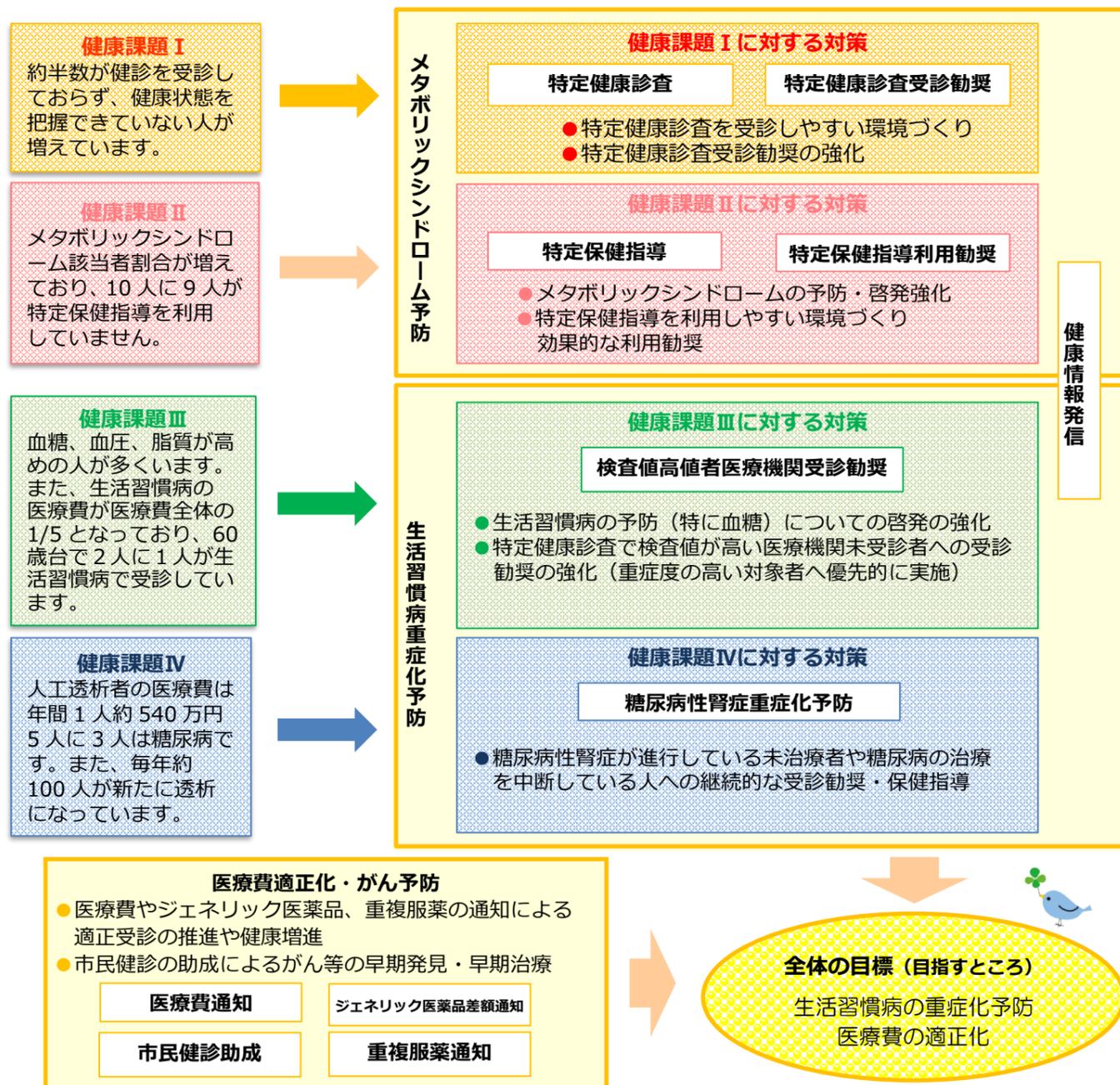


現状分析からまとめた健康課題に対応していくため、下記のとおり目標を設定し、保健事業に取り組んでいきます。



<参考>

対応する健康課題	中長期的目標	ベースライン	目標値（R11）
I	特定健康診査受診率の増加	46.0%	60%
II	特定保健指導終了率の増加	10.7%	60%
II	メタボリックシンドローム該当者割合の減少	23.7%	低下（R4比）
II	メタボリックシンドローム予備群者割合の減少	10.1%	低下（R4比）
II	特定保健指導による特定保健指導対象者割合の減少【新規】	25.5%	低下（R4比）
III	脳血管疾患有病者割合の減少	3.9%	低下（R5比）
III	虚血性心疾患有病者割合の減少	4.5%	低下（R5比）
III	収縮期血圧有所見者割合の減少	44.8%	低下（R4比）
III	LDL コレステロール有所見者割合の減少	46.1%	低下（R4比）
III・IV	HbA1c 有所見者割合の減少	72.1%	低下（R4比）
III・IV	HbA1c8.0%以上の者の割合の減少【新規】	1.2%	低下（R4比）
IV	糖尿病性腎症による新規透析導入者数の減少	61人	低下（R5比）

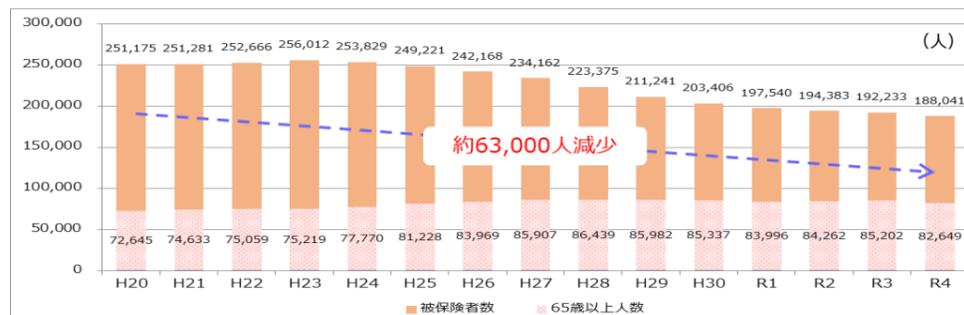
仙台市 国民健康保険 第3期保健事業実施計画（データヘルス計画）

【概要版】（素案） 令和6年度～令和11年度

仙台市国民健康保険では、これまでの取組状況の評価、最新の診療報酬明細書（レセプト）データ、特定健康診査データ等の分析結果を踏まえ、より効果的・効率的な保健事業を推進していくため、令和6年度以降を計画期間とする「第3期保健事業実施計画（データヘルス計画）」を策定しました。本計画は、「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針（厚生労働大臣告示）」に基づき策定するものです。

仙台市国民健康保険の概況

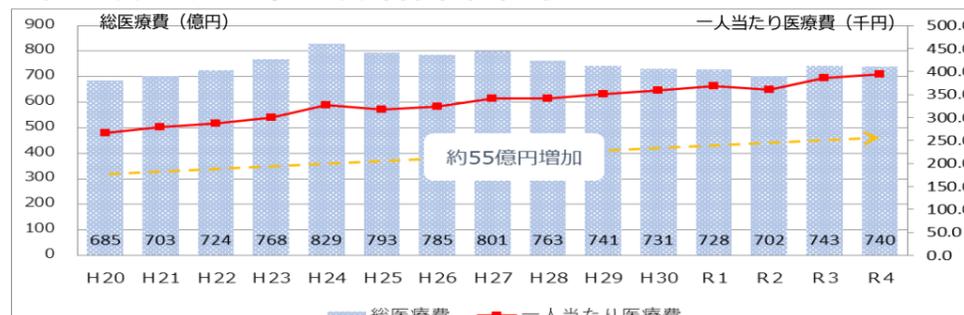
●被保険者数（年度平均人数）経年推移



令和4年度の被保険者数は、平成20年度に比べて約63,000人減少しています。一方で、65歳以上の被保険者割合は増加傾向となっています。

資料：仙台市の国民健康保険

●総医療費・一人当たり医療費（年間）経年推移



令和4年度の総医療費は、平成20年度に比べて、約55億円増加しています。被保険者一人当たり医療費（年間）は、65歳以上の被保険者数割合が増加傾向となっている影響もあり、増加傾向が続いています。

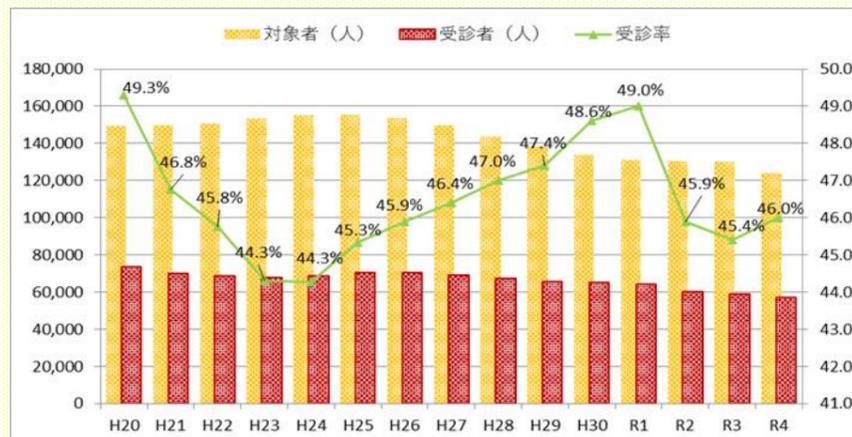
資料：仙台市の国民健康保険

健康課題 I
約半数が健診を受診しておらず、健康状態を把握できていない人が増えています。

対策
● 特定健康診査を受診しやすい環境づくり
● 特定健康診査受診勧奨の強化

健診用WEBサイトの開設により、登録医療機関へ申し込みがしやすい環境を作ります。また、40歳、前年度新規加入者及び未受診者に対し、重点的に電話、SMS、ハガキ等による受診勧奨を実施し、受診率の向上を図ります。

●特定健康診査受診率の経年推移



● 特定健康診査の受診率…46.0%（令和4年度）
 ● 令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による受診控え等の影響を受け低下している。
 <受診率が最も低い年齢階層>
 男性…40～49歳 19.3%
 女性…45～49歳 25.5%
 ● 40歳台の受診率が低い。
 ● 男性の受診率が低い。
 ● 毎年（5年連続）受診している者…19.2%（平成28年度21.5%）
 ● 不定期受診者が増えている。
 ● 健診未受診で生活習慣病のレセプトがない者…47,473人（35.0%）
 ● 健康状態不明者が3割となっている。

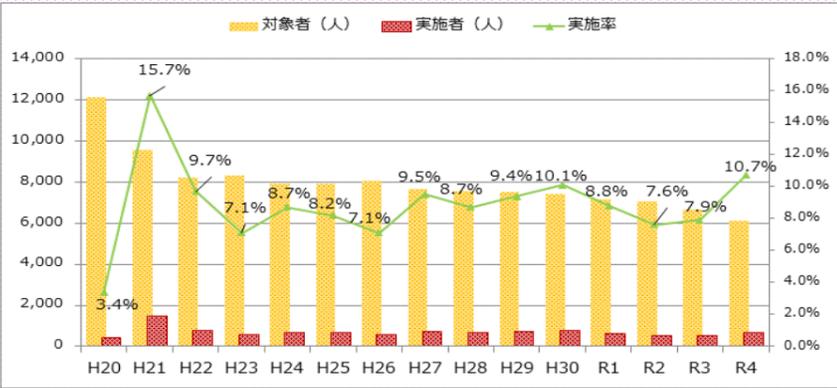
資料：特定健康診査・特定保健指導実施結果総括表（法定報告）

健康課題Ⅱ
メタボリックシンドローム該当者割合が増えています。10人に9人が特定保健指導を利用していません。

対策 ●メタボリックシンドロームの予防・啓発強化
 ●特定保健指導を利用しやすい環境づくり・効果的な利用勧奨

メタボリックシンドロームの予防・啓発を強化します。また、ICTの活用や参加型の啓発イベントの開催（利用勧奨）をする他、登録医療機関での実施状況等の把握により、体制や支援、指導方法の見直しを行い、実施率の向上を図ります。

●特定保健指導実施率の経年推移

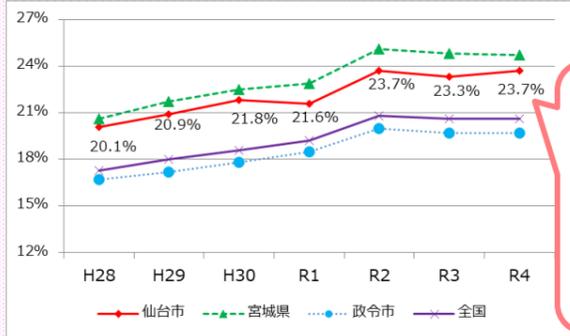


資料：特定健康診査・特定保健指導実施結果総括表（法定報告）

●特定保健指導の終了率…10.7%（令和4年度）
 →令和2年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等により低下したものの若干増加傾向にある。

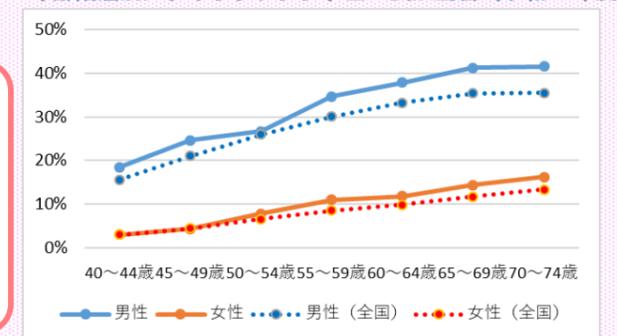
●メタボリックシンドローム該当者割合…23.7%
 →増加傾向が続いている。特に令和2年度大きく増加した。
 →特に男性で50歳台からの増加割合が大きい。

●メタボリックシンドローム該当者の経年推移



資料：国保データベース

●年齢階層別メタボリックシンドローム該当者（令和4年度）



資料：国保データベース

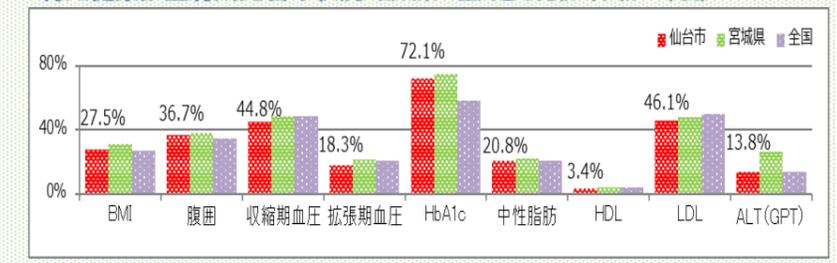
令和2年度メタボリックシンドローム該当者割合が増加。その後も増加傾向が続いている。

健康課題Ⅲ
血糖、血圧、脂質が高めの人が多くいます。また、生活習慣病の医療費が医療費全体の1/5となっており、60歳台で2人に1人が生活習慣病で受診しています。

対策 ●生活習慣病の予防（特に血糖）についての啓発の強化
 ●特定健康診査で検査値が高い医療機関未受診者への受診勧奨の強化

健康的な生活習慣についての啓発を強化します。特に、血糖についての啓発を行います。また、特定健康診査で検査値が高く、医療機関を受診していない人へは、重症度の高い対象者へ優先的に受診勧奨・保健指導を行い、重症化を予防します。

●特定健康診査有所見者の状況 宮城県・全国との比較（令和4年度）

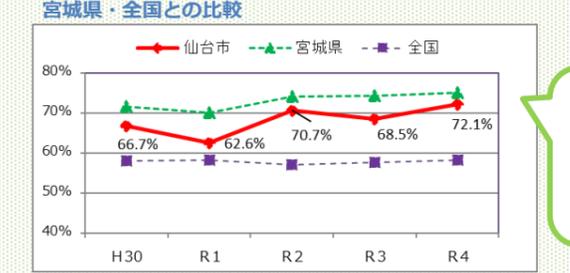


資料：国保データベース

●有所見者割合（令和4年度）
 HbA1c 72.1% …全国…58.2%
 40歳台…男性42.8% 女性32.1%
 収縮期血圧 44.8% LDLコレステロール 46.1%
 →令和2年度以降、HbA1c 有所見者割合の増加傾向が続いている。
 →40歳台で男性の4割、女性の3割がHbA1c 有所見となっている。

●要医療判定かつ未受診者（令和4年度）
 血圧…5,659人 HbA1c…584人
 LDL…8,737人 中性脂肪…845人
 →医療機関を受診していない人がいる。

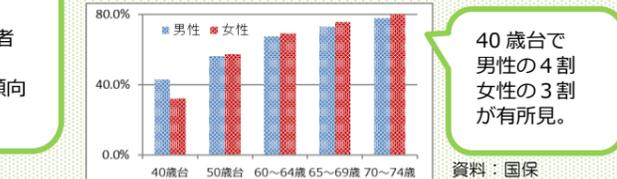
●HbA1c 有所見（5.6%以上）者割合の経年推移 宮城県・全国との比較



資料：国保データベース

令和2年度、HbA1c 有所見者割合が増加。その後も増加傾向が続いている。

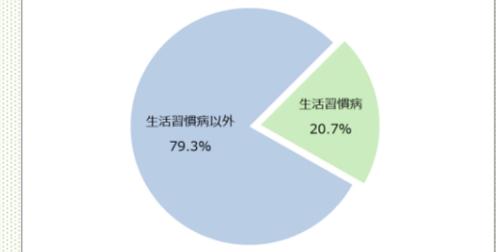
●年齢階層別 HbA1c 有所見者割合（令和4年度）



資料：国保データベース

40歳台で男性の4割、女性の3割が有所見。

●医療費総額に占める生活習慣病の医療費（令和4年度）



生活習慣病の医療費が医療費全体の1/5

資料：レセプトデータ

●生活習慣病での医療費…医療費全体の20.7%（平成28年度24.2%）
 →医療費総額に占める生活習慣病の医療費の割合は減少傾向にある。
 <疾病別の状況>
 ●腎不全医療費1位 26.68%
 患者一人当たり医療費（年間）1位
 →腎不全は医療費、一人当たり医療費で1位。
 ●糖尿病（医療費2位・患者数2位）
 ●高血圧性疾患（医療費3位・患者数1位）
 ●脂質異常症（医療費4位・患者数3位）
 →糖尿病、高血圧性疾患、脂質異常症の3疾患での医療費が全体の52.4%、患者数が全体の76.5%を占めている。

●生活習慣病受診者…30～35歳 1割
 60歳台半ば 約半数
 →30歳台で1～2割、60歳台半ばで約半数が生活習慣病で受診している。

30歳台で1～2割、60歳台で約半数が生活習慣病で受診。

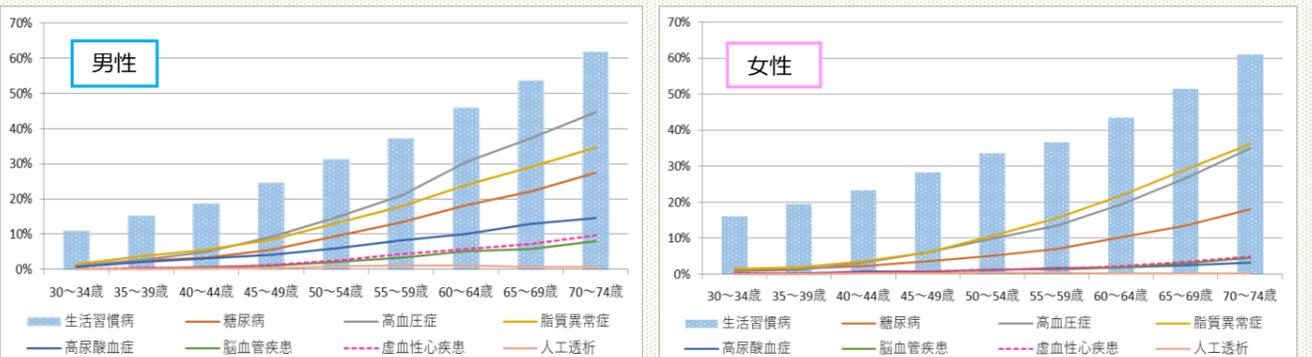


●生活習慣病の医療費と患者数を詳しくみると…

疾病	医療費(円)	構成比	患者数(人)	有病率	患者一人当たりの医療費(円)
腎不全	3,521,596,963	26.68%	6,446	2.92%	546,323
糖尿病	3,083,906,124	23.36%	55,618	25.21%	55,448
高血圧性疾患	2,292,692,172	17.37%	61,347	27.81%	37,373
脂質異常症	1,541,687,557	11.68%	51,830	23.49%	29,745
虚血性心疾患	1,160,756,035	8.79%	16,433	7.45%	70,636
脳梗塞	955,579,098	7.24%	8,826	4.00%	108,269
脳内出血	394,384,489	2.99%	2,253	1.02%	175,049
動脈硬化(症)	156,782,906	1.19%	8,342	3.78%	18,794
くも膜下出血	91,030,585	0.69%	540	0.24%	168,575
脳動脈硬化(症)	2,394,553	0.02%	221	0.10%	10,835
生活習慣病合計	13,200,810,482	20.69%	94,262	42.72%	140,044
生活習慣病以外	50,601,815,538	79.31%	-	-	-
医療費総額	63,802,626,020	-	-	-	-

資料：レセプトデータ

●年齢階層別生活習慣病受診者の割合（令和5年5月）



資料：国保データベース

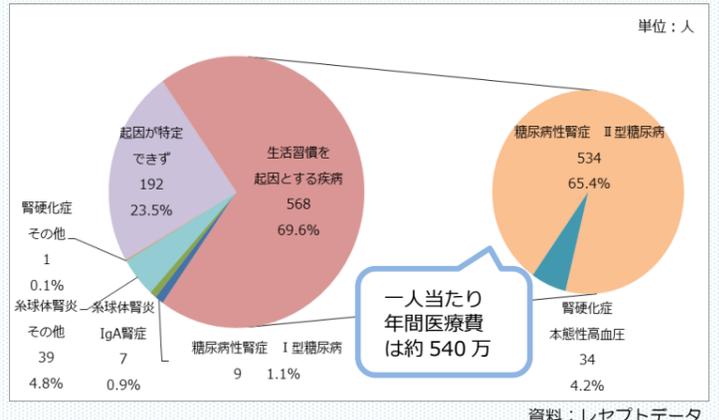
資料：国保データベース

健康課題Ⅳ
人工透析者の医療費は年間約540万円、5人に3人は糖尿病です。また毎年約100人が新たに透析になっています。

対策 ●糖尿病性腎症が進行している未治療者や糖尿病の治療を中断している人への継続的な受診勧奨・保健指導

特定健康診査で糖尿病性腎症が進行しているにも関わらず医療機関を受診していない人やレセプトで糖尿病の治療を中断していると考えられる人には、継続的に受診勧奨・保健指導を行い、透析への移行を防止します。

●人工透析者816人（年間）の起因（令和4年度）



●人工透析を行っている者（年間）816人 <Ⅱ型糖尿病を起因とした糖尿病腎症が要因>
 65.4% →約6割はⅡ型糖尿病が起因
 ●透析患者の一人当たり医療費（年間）…約540万円 →医療費が高額となっている。
 ●新規透析導入者100人 <糖尿病有病者> 61.0%
 →新規透析導入者の約6割が糖尿病有病者。

●新規透析導入者の糖尿病有病状況 経年推移



資料：国保データベース

新規透析導入者100名のうち61.0%が糖尿病